

>studiologic®



オペレーションマニュアル J

日本語

## より安全にお使いいただくために



## 高電圧注意!

感電の恐れがあるため、分解は絶対におやめくだ さい。本体内部にスペア部品などは一切付属して おりません。修理は当社の販売店ま たはディリゲ ント・テクニカルサポートまでお申し付けくださ い。



バッテリーで駆動させる代わりに、PC または互換 性のある外部電源に接続することで、USB 端子か ら電源供給が可能です。



#### 湿気について

感電の恐れがあるため、分解は絶対におやめくだ さい。本体内部に スペア部品などは一切付属して おりません。修理は当社の販売店ま たはディリゲ ント・テクニカルサポートまでお申し付けくださ い。本機を低温の場所から高温の場所へ移動した 場合、本体内部に凝結 が発生する場合があります。 この場合、本体が部屋の気温に十分馴染んでから 電源を投入してください。



**設置について** サイズ、重量を考慮し、安定性の高いラックなど をご使用ください。

#### 掃除/メンテナンスについて

強力な洗剤は絶対に使用しないでください。表面 に染みがつく原因となります。軽く水をしみこま せたマイクロファイバーの布でのお掃除をお奨め いたします。

#### パッケージについて

すべての梱包材は保管をお願いします。輸送時、 または修理が必要な場合など、製品を保護するた めに使用してください。



本機の性能を知っていただき使いこなしていただ くために、本マニュアルの熟読をお奨めいたしま す。

付属品はマニュアルに従ってご使用ください。ま た本マニュアルに指示された以外、不正な作業が 行われて本機に不具合が発生した場合、保証を受 けられなくなりますのでご注意ください。

# 目次

SL Mixface	4
製品概要	4
DAW モード	4
CTRL モード	4
ビデオ・チュートリアル	4
ファームウェアのアップデート	4
パッケージ同梱品	4

5
5
5
5
5
5
5
6

パネルとユーザーインターフェイス	8

CTRL モード	9
はじめに	9
MIDI デバイスを HOST 端子に接続する	9
SL MIDI キーボードを HOST 端子に接続する	9

DAW モード	10
はじめに	10
DAW モードの準備	10
Mixface を使用するための DAW 側の設定	10

Mixface の設定	10
はじめに	10
Store Current Program	
(現在のプログラムの保存)	10

Zone Edit(ZONE の編集)	11
MIDI Settings(MIDI 設定)	11
Controls Mapping(操作子のマッピング)	11

Global Settings(グローバル設定)	12
はじめに	12
DAW Port and type(DAW とポートの選択)	12
Bluetooth	12
MIDI Merge(MIDI マージ設定)	12
Factory Restore(工場出荷時への復元)	12

宣言	13
適合宣言	13
Warranty(保証について)	14
State of the art(最新式の技術)	14
Disclaimer(免責条項)	14
Trademarks(商標)	14
Copyright(著作権)	14
FCC Information(FCC 情報)	14

製品サポートについて			
製品サポートについて	15		

## **SL Mixface**

#### 製品概要

SL Mixface をご購入いただき、誠にありがとうございます。

SL Mixface は、スタジオやステージで、音楽制作やパフォー マンスを快適に行うために開発されました。製品の構造やプ ログラミングの詳細まで、本体とその機能を理解するために、 このマニュアル全体を注意深くお読みいただくことをお勧め いたします。また、ファームウェアのアップデートやソフト ウェアをダウンロードするために、Dirigent の製品ページを 頻繁に確認してください。

Mixface には、伝統的なリモート・コントロール・サーフェ イスとして機能する「DAW モード」と、MIDI コントローラー と通信し Studiologic SL88/73 キーボードの機能を拡張す る「CTRL モード」の、ふたつの機能が収められています。ディ スプレイの下の「DAW | CTRL」ボタンを押して、これらの 「モード」を切り替えます。

≯st	udiolog	ic		۵		SL	MIXE	ACE	۵. ۲.	evice .	U\$8	+ set
and a		<sup>3</sup>		5	• •	0	•	Master	P01 P1	ROGRAM (Eyboard   S1: CC16	1	**
vou Is									[EBUT] DAW   CTRL <♀	\$ <b>*</b>		
1 9 2171E   B	2   10	3 11	4   12	5   13	6   14	7   15	8   16	HI   N2	Rec   1	Mute   2	Solo   3	Select 4

#### DAW モード

DAW モードでは、本体の 9 つのボリューム・スライダー、 8 つのパン・ノブ、8 つの多機能ボタンで、お使いの DAW をコントロールします。ミキサーセクションの右側には、ト ランスポート・コントロール・ボタンが並んでいます。

#### CTRLモード

CTRL (コントローラー) モードでは、Mixface は、プログ ラム可能な MIDI コントロール・サーフェイスとして機能し ます。お使いのソフトウェアまたはハードウェア・シンセサ イザー、サウンドモジュール、MIDI でコントロール可能な デバイスなどをコントロールすることができます。

また、本体の USB HOST 端子を使用して、Mixface を、 Studiologic の SL MIDI キーボード シリーズ (SL88 Grand、SL88 Studio、SL73 Studio)の拡張コントローラー として動作させたり、他社製の MIDI コントローラーを4 ゾー ンのマスターキーボードとして動作させることも可能です。

DAW をコントロールするためのトランスポート・コントロー ル・ボタンは、CTRL モードでも機能します。

#### ビデオ・チュートリアル

Dirigent の製品ページに、Mixface の使用に関するビデオ チュートリアルが掲載されています。ご参照ください。

https://dirigent.jp/product/studiologic/sl-mixface/

#### ファームウェアのアップデート

Dirigent の製品ページをチェックして、常に最新バージョン のファームウェアを入手してください。現在インストールさ れているバージョンは、Mixface 電源投入時にディスプレイ に数秒間表示されます。

ファームウェアのアップデート手順については、Dirigent 製 品ページをご覧ください。

#### パッケージ同梱品

SL Mixface 本体 Micro USB ケーブル 滑り止めデスクトップ・パッド ステッカー、その他

※Mixface は、MIDI サブクラスに限定された USB クラスコ ンプライアント MIDI コントローラーと互換があり、 Windows、macOS、および iOS において特定のドライバー をインストールする必要はありません。尚、USB オーディオ を使用するデバイスは使用できません。

## 接続 / 使用例

#### 接続

すべての接続端子は、本体の背面にあります。



#### 電源

Mixface は、PC やその他互換性のある外部電源から USB 端子経由で、または単 4 乾電池 3 本にて電源供給されます。 電源スイッチには 3 つの位置があり、それぞれ、USB 駆動 オン、オフ、乾電池駆動オンと切り替えられます。

#### 重要:

USB HOST 端子には、絶対に電源を接続しないでください。

#### USB 端子

Mixface には、コンピューター接続用の DEVICE 端子と MIDI コントローラー接続用の HOST 端子(SL シリーズまた は他のコントローラー)の2つの USB 端子があります。

DEVICE 端子は、コンピューターと接続し、MDI 信号の送受 信やファームウェアのアップデートに使用します。

Mixface を USB 経由でコンピューターと接続した場合、コンピューターには、以下の3つの MIDI ポートが表示されます。

- SLMIX USB (Port 1): CTRL モードで、MIDI コントロール・サーフェイス として使用します。
- SLMIX USB (Port 2):
   ファームウェアのアップデートに使用します。
- SLMIX USB (Port 3):
   DAW モードで、DAW のコントロール・サーフェ イスとして使用します。

#### 注意:

Mixface は、DEVICE 端子に外部電源が接続されている場合 に限り、HOST 端子に接続されているデバイスに電源を供給 できます。

バッテリーの装着

本体の電源がオフになっていることを確認してから、本体裏 面のスタンドを持ち上げ、バッテリーカバーを開きます。バッ テリーの極性を確認してバッテリーを装着し、バッテリーカ バーを閉めます。

# 

注意:

長時間使用しない場合は、バッテリーが液漏れしないように、 必ずバッテリーを取り外してください。

#### Bluetooth

Bluetooth モードでコンピューターと接続した場合、コン ピューターに表示される MIDI ポートは、「SLMIX BT」とい う名のひとつだけです。

#### 重要:

Bluetooth 接続では、上記の通り複数の MIDI ポートを使用 できないため、Bluetooth 接続のみを使用している場合は、 Mixface のふたつのモード (DAW と CTRL) を同時に使用 することはできません。同様に、すべての DAW が Bluetooth 接続をサポートしているわけではありません。選 択した DAW によっては、使用可能なポートが限定される場 合があります。

#### ケンジントンロック・スロット

このスロットと、ケンジントン互換のセキュリティーロック を併用して、SL Mixface を盗難から守ることができます。

#### 使用例

SL シリーズを使用した接続例。



この図は、SL シリーズ MIDI コントローラーを含むシステムで Mixface を使用する例を示しています。

- SL シリーズの USB 端子と Mixface の USB HOST 端子を接続します。
- コンピューターの USB 端子と Mixface の USB DEVICE 端子を接続します。
- iPad と Bluetooth 経由で接続します。
- SL シリーズの MIDI アウト 1 端子と Sledge の MIDI IN 端子を接続します。

この設定では、ゾーンは SL シリーズで設定され、Mixface の CTRL モードで、コントロールしたい機器に対応するポートを選 択します。例えば、ゾーン1は、コンピューター上の VST プラグインをコントロールするため USB DEVICE 端子に割り当てられ、 ゾーン 2 は、Sledge をコントロールするために MIDI アウト 1 端子に設定され、ゾーン 3 は、Bluetooth 端子を介して iPad 上の MIDI アプリをコントロールすることができます。

DAW モードでは、DAW と USB ポートの設定を正しく行った後、トラックやトランスポートのコントロールを行うことができます。

USB MIDI クラスコンプライアント・デバイスを使用した接続例。



この図では、Mlxfaceを、一般的なシステムで使用する方法を示しています。

- USB MIDI コントローラーの USB 端子と Mixface の USB HOST 端子を接続します。
- コンピューターの USB 端子と Mixface の USB DEVICE 端子を接続します。
- iPad と Bluetooth 経由で接続します。

この設定では、ゾーンは Mixface の EDIT 内で設定され、CTRL モードでコントロールしたいインストゥルメントに対応するポートを選びます。例えば、ゾーン1は、USB DEVICE 端子に割り当てられコンピューターの VST プラグインをコントロールします。 Bluetooth 端子を介したゾーン3は、iPad の MIDI アプリをコントロールできます。

DAW モードでは、DAW と USB ポートの設定を正しく行った後、トラックやトランスポートのコントロールを行うことができます。

※ Mixface は、MIDI サブクラスに限定された USB クラスコンプライアント MIDI コントローラーと互換があり、Windows、macOS、および iOS において特定の ドライバーをインストールする必要はありません。尚、USB オーディオを使用するデバイスは使用できません。



Mixface は、以下の要素で構成されています。

- ① バックライト付き TFT 液晶ディスプレイ(320 x 240)
- ② クリック式ロータリーエンコーダー
- ③ DAW / CTRL ボタン:モードの切替、長押しで EDIT メ
   ニューにアクセス
- ④ IN ボタン
- ⑤ OUT ボタン
   IN & OUT (トラック選択) ボタン: EDIT メニューのナビゲーション、CTRL モードでのコントロールセット(1-8/9-16)の選択、DAW モードでのトラックへのアクセス
- ⑥ DAW をコントロールするトランスポート・セクション の8つのボタン
- ⑦ 4つの MODE / ZONE ボタン: DAW モードではスラ イダー下のボタンの機能を選択し、CTRL モードではゾー ンの選択
- ⑧ 8つのノブ
- 9 9つのスライダー
- 10 8つの多機能ボタン

EDIT メニューにアクセスするには、DAW / CTRL ボタンを 長押しします。メニュー内のナビゲーションは、ロータリー エンコーダーと IN または OUT ボタンで行います。エンコー ダーを回したりクリックしたり、IN / OUT ボタンを押すこ とで、編集するメニュー項目またはパラメーターを選択し、 決定します。



## CTRLモード

#### はじめに

コントローラー・モード(CTRL モード)では、Mixface を Studiologic の SL MIDI キーボードシリーズと組み合わせて 使用することができます。この場合、Mixface のすべての操 作子を、4 つのゾーンに割り振られているハードウェアまた はソフトウェア・インストゥルメントのパラメーターをコン トロールできるようにプログラムすることが可能です。 Mixface 右側にあるトランスポート・ボタンは、DAW モー ドでも CTRL モードでも、選択されているモードを問わず機 能します。

P01 PROGRAM	
CTRL Z1 USB DEV (	<b>Ch 1</b> )
1-8 9-16 S1: CC16	000

メインの HOME 画面では、デバイスの設定と状態を概要を 表示しています。CTRLモードでは、以下の情報を表示します。

- 選択されたプログラムの番号と名前
- 現在のモード(CTRL モード)
- 選択されているゾーン(この図では Z1 ゾーン 1)
- 現在のゾーンの出力ポート(この図では USB DEV)
- 現在のゾーンの MIDI チャンネル(この図では Ch 1)
- 現在有効になっているスライダーセット(1-8、または 9-16)
- 有効になっている操作子と関連するパラメーター(例: 「S1: CC16 000」→ 意味「スライダー1に、コントロール・チェンジ #16 が割り当てられていて、現在の値は000」)

#### MIDI デバイスを HOST 端子に接続する

CTRL モードの Mixface は、本体の HOST 端子を介して、 あらゆる MIDI コントローラーを、4 つのプログラム可能な ゾーンを持つマスターキーボードに変化させます。MIDI コ ントローラーが HOST 端子に接続されていると、ディスプレ イには「EXT」と表示され、そのユニットのステータスが表 示されます。



このモードでは、Mixface は接続されているコントローラー から MIDI 信号を受け取り、それらを 4 つのゾーンに分配し ます。4 つのゾーンは、MIDI ポートとチャンネルに割り当て られ、様々なインストゥルメントをコントロールします。

#### SL MIDI キーボードを HOST 端子に接続する

SL MIDI キーボードシリーズ (SL88 Grand / SL88 Studio / SL73 Studio) を接続する前に、まず SL MIDI キーボード シリーズのファームウェアを最新のものにアップデートして ください (2019 年 3 月下旬現在:バージョン 1.7.0)。

SL MIDI キーボードシリーズを Mixface の HOST 端子に接続するだけで、Mixface は SL MIDI キーボードの拡張コントローラーとなり、SL MIDI キーボードにプログラム可能な操作子を追加し、SL MIDI キーボードの 4 つのゾーンをMixface からコントロールすることが可能です。また、SL MIDI キーボード側から Mixface のプログラムを呼び出すことも可能です。

P01 PROGRAM	1
SL KEYBOARD	) <b>Z1</b>
1-8 9-16 S1: CC16	000

重要な注意点

このモードでは、Mixface は SL MIDI キーボードの拡張コ ントローラーとなり、設定は SL MIDI キーボード側でプログ ラムされているので、Mixface 側の MIDI ゾーン設定(ポート、 チャンネル、キーボード・レンジ) は無視されます。また Edit メニューから、Mixface を経由して Bluetooth MIDI ポー トも選択できるようになります。

※ Mixface は、本体の USB DEVICE 端子に外部電源が接続されている場合 に限り、USB HOST 端子に接続されている外部デバイスに電源を供給するこ とが可能です。

## DAWモード

#### はじめに

DAW (デジタル・オーディオ・ワークステーション) モード では、Mixface をお気に入りの音楽ソフトウェア (Cubase、Digital Perfomer など) のコントロール・サーフェイスとして使用できます。



DAW モードの HOME 画面では、以下の情報が表示されます。

- 選択されている DAW の名称
- DAW モード
- 使用されているポート(この例では、USB DEV)
- 多機能ボタンの選択されている機能(REC、MUTE、 SOLO、SELECT)
- 使用中の操作子と割り当てられているパラメーター

#### DAW モードの準備

Global Setting 内でお使いの DAW (この例では Cubase) を選択すれば、Mixface をコントロール・サーフェイスとし て使用する準備が整いました。

#### Mixface を使用するための DAW 側の設定

各 DAW によって設定方法や使用するプロトコルが異なりま す。ソフトウェアによって、設定画面でパラメーターを設定 するだけで良い場合もあれば、追加ファイルをインストール する必要がある場合もあります。Dirigent の製品ページで設 定手順を確認してください。

## Mixfaceの設定

#### はじめに

EDIT メニューでは、現在のプログラムやグローバルパラメー ターの設定を行います。EDIT メニューに入るには、[EDIT] ボタンを 2 秒間押し続けます。

EDIT メニューには以下の項目が表示されます。

- Zone Edit(ゾーンの編集)
- Store current Program(現在のプログラムの保存)
- Global Settings(グローバル設定)

EDIT MENU	
Zone Edit	
Store Current Program	J
Global Settings	

メインのエンコーダーを回して希望の項目を選択し、エン コーダーまたは [IN] ボタンを押してその項目にアクセスし ます。[OUT] ボタンを押してその階層を抜けるか、もう一 度 [EDIT] ボタンを押して EDIT メニューを終了します。

#### Store Current Program (現在のプログラムの保存)

EDIT メニューの STORE ページでプログラムの保存の名前 の変更が行なえます。

- Store under : プログラムを保存する場所です。 Mixface には 99 のユーザーメモリがあります。
- Name:エンコーダーをクリックしてカーソル位置を次に移動し、エンコーダーを回して文字または数字を選択して、プログラムの名前を変更します。

変更を保存するには [IN] ボタンを、確定せずにメニューを 抜けるには、[OUT]ボタンを押します。

EDIT > STORE	
Store under:	PO2
Name:	PROGRAM X
OUT=Cancel	IN=Proceed

Mixface は、プログラムに変更が加えられたかどうかを検出 するので、メニューを抜ける際に現在の変更を保存するかど う か (Pxx has been edited. Do you want to store it?) 訊ねます。エンコーダーを回して「No (保存しない)」また は「Yes (保存する)」を選択して、エンコーダーをクリック して確定します。保存した場合、設定変更は現在のプログラ ムに上書きされます。

## Zone Edit (ゾーンの編集)

 エンコーダーを回してディスプレイに表示されている4 つのゾーンのひとつを選択し、[IN]ボタンまたはエン コーダーを押します。



 ゾーンが選択されると、サブメニューで、ゾーンの有効・ 無効(Enable)、MIDI 設定(MIDI Settings)、操作子の マッピング(Controls Mapping)を設定することがで きます。

EDIT > ZONE I	
<mark>Enable</mark> Midi Settings Controls Mapping	On J

#### MIDI Settings (MIDI 設定)

MIDI Settings (MIDI 設定) では、以下のパラメーターを設 定できます。

- Port:出力先のポート・USB HST (USB HOST)、
   USB DEV (USB DEVICE)、BT-MIDI (Bluetooth MIDI)
- MIDI Ch: MIDI チャンネル・01~16
- Prg:プログラムチェンジ・Mixface Program に送られるプログラムチェンジ OFF、001~128
- Bank MSB、Bank LSB:バンク・セレクト (MSB、LSB) OFF、000~128
- Lower key、Upper key: キーレンジ C-1~G9
- Transpose : トランスポーズ -12~+12
- Octave:オクターブシフト -03~+03

## EDIT > ZONE I > MIDI Port: USB DEV



エンコーダーを回して左の列の項目をスクロールし、目的の 項目でエンコーダーを押してフォーカスを右のパラメーター に移動させ、目的の値を設定します。

注意

これらのパラメーターは、SL MIDI キーボードシリーズと接続した場合は、無視されます。

#### Controls Mapping (操作子のマッピング)

このセクションでは、4 つのゾーンそれぞれについて、すべ ての Mixface 操作子(スライダー、ノブ、ボタン)の設定を 行うことができます。

Mixface には、合計 18 個のスライダー (8ch x 2 + 2 マス ター)、16 個のボタン、16 個のロータリーノブを装備して います。



設定したい操作子のセット (1-8か9-16)を選択します。

EDIT > ZONE I > SET I-8	
Move the control for editing	

設定したい操作子を動かします (ボタンなら押し、ノブなら回 し、スライダーなら上下しま す)。

> ZONE I > SET I-	·8 > SOI
Ctrl CC#:	CC16
Val. min:	000
Val. max:	127

操作子が選択されると、MIDI メッセージを割り当てるための ページが表示されます。

図の例では、スライダー 1(SO1)にコントロールチェンジ #16(CC 16)が割り当てられています。

MIDI メッセージ割当画面から [OUT] ボタンを押すと操作 子を選択する画面に戻りますので、続けて、次の割り当てた い操作子(例えばスライダー 2:SO2)の設定を行うことが できます。

このようにして、CTRL モードの各ゾーンに 9 つのスライ ダー、8つのノブ、8つのボタンの2セット分(計50の操作子) を設定します。

## Global Settings (グローバル設定)

#### はじめに

EDIT メニューの最後は、本体のグローバル設定を行う項目 です。



ここには以下の4つの項目が含まれています。

- DAW Port and type : DAW のタイプとポートの選択
- Bluetootn:Bluetooth 機能のオンオフ
- MIDI Merge: MIDI マージ設定
- Factory Restore:工場出荷時の状態に復元

#### DAW Port and type (DAW とポートの選択)

DAW を選択する際、使用する DAW ソフトウェアと使用す るポート (USB または Bluetooth)を設定します。

## > GLOBAL > DAW Port USB Type Cubase

対応する DAW は、今後の Mixface のファームウェアのバー ジョンアップに伴って増える予定です。

現在は、以下の DAW に対応しています。

- Steinberg Cubase / Nuendo
- MOTU Digital Performer
- Ableton Live
- Presonus Studio One
- Propellerhead Reason
- Apple Logic-GarageB.
- Avid Pro Tools

#### Bluetooth

Bluetooth 機能を有効にすることで、コンピューターや iOS デバイスと Bluetooth 無線接続を行うことが可能になりま す。Mixface 自体をワイヤレスコントローラーとして使用す る他、Mixface に接続した MIDI キーボードなどを無線 MIDI コントローラーとして使用することも可能です。

#### 注意

Bluetooth モードでは、Mixface はひとつの内部ポート (SLMIX BT) しか持てないため、トランスポートボタンは DAW モードでのみ機能します。また、Bluetooth 接続のみ を使用している場合は、Mixface のふたつのモード (DAW と CTRL) を同時に使用することはできません。

尚。PIN コードの入力が必要な場合は、「0000」を入力して ください。

#### > GLOBAL > BLUETOOTH

Power Off

#### **MIDI Merge**

MIDI Merge (MIDI マージ) 機能を使用すると、Bluetooth および USB DEVICE 端子の MIDI データを次の組み合わせ で他の出力にミックスできます。

- Bluetooth to : None、USB Device、USB Host
- USB Dev. to : None、USB Host

<b>MERGE</b>
None None

#### **Factory Restore**

この項目にアクセスすることで、Mixface 本体のユーザーが プログラムしたすべての設定を削除し、工場出荷時の状態に 戻します。「This oeration will erase all your presets! OUT=Cansel IN=Proceed」というメッセージが表示されま すので、復元を実行する場合は [IN] ボタンを、キャンセル する場合は [OUT] ボタンを押します。

#### > GLOBAL > FACTORY RESTORE

This operation will erase all your presets! OUT=Cancel IN=Pr<u>oceed</u>



### 適合宣言

FATAR srl Zona Ind.le Squartabue 62019 Recanati MC Italy 本製品は、以下の規格の要件を満たしていることを自らの責任において宣言します。

Standard	International reference	Description
EN 55032 (2015)	CISPR 32 (2015)	Electromagnetic compatibility of multimedia equipment - Emission requirements
EN 55035 (2017)	CISPR 35 (2016)	Electromagnetic compatibility of multimedia equipment – Immunity requirements
EN 60065 (2014) EN 60065/AC (2016)	IEC 60065 (2014)	Audio, video and similar electronic apparatus - Safety requirements
EN 62368-1 (2014)	IEC 62368-1 (2014)	Audio/video, information and communication technology equipmentPart 1: Safety requirements
EN 62479 (2010)	IEC 62479 (2010)	Assessment of the compliance of low power electronic and electrical equipment with the basic restrictions related to human exposure to electromagnetic fields (10 MHz to 300 GHz)
ETSI EN 301 489-1 V3.1.1 (2017)	-	ElectroMagnetic Compatibility (EMC) standard for radio equipment and services; Part 1: Common technical requirements; Harmonised Standard covering the essential requirements of article 3.1(b) of Directive 2014/53/EU and the essential requirements of article 6 of Directive 2014/30/EU
ETSI EN 301 489-17 V3.1.1 (2017)	-	Electromagnetic compatibility and Radio spectrum Matters (ERM); ElectroMagnetic Compatibility (EMC) standard for radio equipment; Part 17: Specific conditions for Broadband Data Transmission Systems
ETSI 300 228 V2.1.1 (2016)	-	Wideband transmission systems; Data transmission equipment operating in the 2,4 GHz band; Harmonised Standard for access to radio spectrum
EN 60950-1 (2006) A11 (2009) A12 (2011) A1 (2010) A2 (2013)	IEC 60950-1 (2006)	Information technology equipment - Safety Part 1: General requirements
EN 50581 (2012)	-	Technical documentation for the assessment of electrical and electronic products with respect to the restriction of hazardous substances

#### そして、以下のヨーロッパ指令と改正の要件を遵守してください。

Directive/Regulation	Description
Directive 2014/30/EU	DIRECTIVE 2014/30 / EU OF THE EUROPEAN PARLIAMENT AND OF THE COUNCIL of 26 February 2014 on the harmonization of the Member States relating to electromagnetic compatibility
Directive 2014/53/EU	Directive 2014/53/EU of the European Parliament and of the Council of 16 April 2014 on the harmonisation of the laws of the Member States relating to the making available on the market of radio equipment and repealing Directive 1999/5/EC Text with EEA relevance.
Directive 2011/65/EU	Directive 2011 /65/CE of the European Parliament and of the Council of the June 8, 2011 on the restriction of the use of certain hazardous substances in electrical and electronic equipment.
Directive 2012/19/EU	Directive 2012/19/EU of the European Parliament and of the Council of 4 July 2012 on waste electrical and electronic equipment (WEEE)

Recanati, 6. 11. 2018 Marco Ragni, Chief Executive Officer

#### Warranty (保証について)

すべての Fatar 社 Studiologic の製品は、細心の注意を払っ て製造、測定、動作テストを行い、製品保証を設けています。 サポートを受ける ために、お客様の SL Mixface のご登録を お願いいたします。不適切な運搬、設置、取扱いが原因によ る故障につきましては、保証の対象外とさせていただきます のでご注意ください。これらは、伊 FATAR 社ならびに代理 店が定める一般的条件に基づいています。機器の価格を上回 る補償は、除外されますのでご了承ください。

#### State of the art (最新式の技術)

最良の品質を保証するために、Fatar 社製のすべての Studiologic 製品は、最新の技術で設計されているため、告 知なく、アップデート、仕様の変更、改良等を行うことがご ざいます。技術仕様ならびに製品の外観は本マニュアルと異 なる場合がございますので、ご了承ください。

#### Disclaimer (免責条項)

この製品は、SL MIDI キーボードシリーズをプラグ&プレイ で接続するための USB HOST 端子を持った機器であり、こ の端子は、MIDI サブクラスに限定された USB クラスコンプ ライアントの他社製 MIDI コントローラーでも使用可能です。 USB オーディオを使用するデバイスには対応していません。 Studiologic は、他社製デバイスとの互換性を保証するもの ではなく、この製品との接続に関連した損害や故障について も責任を負いません。

#### Trademarks(商標)

本マニュアルのすべての商標はそれぞれの所有者に帰属しま す。

## J

#### Copyright (著作権)

本マニュアルの一部もしくは全部を、著作権利者の許可なく、 いかなる形式において複製、転送することを禁止いたします。

FATAR SrI Zona Ind.le Squartabue 62019 Recanati, Italy

※ 仕様は予告なく変更される場合があります。

#### FCC Information (FCC 情報)

本機器に対し、準拠に責任を負う関係者によって明示的に承認されていない変更または修正を加えると、ユーザーがこの 機器を使用する権利は無効になります(パート:15.21)。

本機器は、FCC 規定のパート 15 に従い、クラス B デジタル デバイスの制限を満たすことが試験で証明されています。こ れらの制限は、住宅地での使用において、有害な干渉が生じ ないように適切に保護する目的で設けられています。本機器 は、無線周波数エネルギーを生成、使用し、また放出する可 能性があります。このため、指示に従って使用しなかった場 合、無線通信に有害な干渉を生じるおそれがあります。ただ し、特定の設置状況において、干渉が発生しないことを保証 するものではありません。本機器がラジオまたはテレビの受 信障害を発生させているかどうかは、本機器の電源をいった ん切って再投入することで確認できます。干渉がある場合、 以下のいずれかの方法により干渉を解消するようにしてくだ さい。

- 受信アンテナの方向または設置場所を変更する。
- 本機器と受信機の距離を離す。
- 受信機の接続先の電気回路とは別の電気回路のコンセン トに機器を接続する。
- 販売店または経験のあるラジオ/テレビ技術者に相談する。

FCC ID : S9NSPBTLE1S

## 製品サポートについて

#### 製品サポートについて

本書をご覧いただいても解決できない問題がございましたら、Dirigent カスタマーサポートまでご連絡ください。

なお、サポート・サービスをご利用いただくためには、Dirigent へのユーザー登録が必要です。登録の確認ができない場合、サポート・サービスをご利用いただくことができません。予めご了承ください。

#### ■ Dirigent へのご登録方法:

Dirigent サポートページにアクセスし、Studiologic オンライン登録フォームよりご登録をお願いいたします。

#### ■ Dirigent カスタマーサポート:

電話でお問い合わせの際は、Dirigent へのご登録確認のため、お名前・製品名・製品シリアルナンバーをお伺いいたします。また、 メールでのお問い合わせは、Dirigent サポートサイトのお問い合わせフォームをご利用ください。

- 電話番号:03-6264-7818(受付時間:平日10:30~17:00)
- 休業日:土日祝日および弊社特別休業日
- Dirigent サポートサイト: https://dirigent.jp/support/





日本総代理店:株式会社銀座十字屋ディリゲント事業部 https://dirigent.jp/